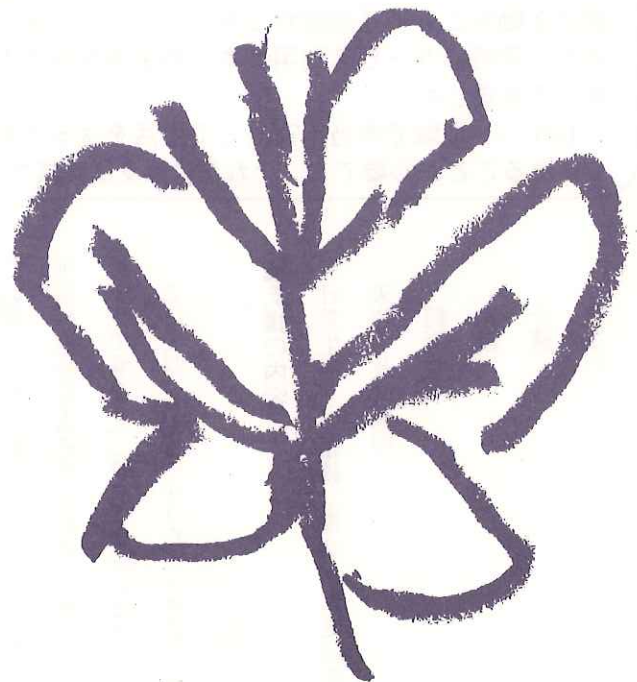




# 働く障害者も 働けるんだオレたちも こぶしだより

企画：社会福祉法人 こぶしの会  
発行責任者：藤田勝春  
編集責任者：田澤幸子  
発行所：障害者団体定期刊行物協会  
(〒157-0073)  
東京都世田谷区砧6-26-21  
定価 100円



### もくじ

- ①特集 地域生活支援事業…………… 2・3 ページ
- ②仲 間…………… 4・5 ページ
- ③保護者・こよみ…………… 6 ページ
- ④トピックス…………… 7 ページ
- ⑤掲示板…………… 8 ページ

こぶし作業所 野中 隆司

社会福祉法人  
こぶしの会

- 法人事務局 こぶし作業所・生活支援センター ☎321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401  
TEL 028(662)1911 FAX 028(662)1912
- けやき作業所 ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2244  
●デイサービスセンター TEL 028(687)1040 FAX 028(677)5789
- 第2けやき作業所 ☎321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田1532  
●県東ライフサポートセンター TEL 028(677)0495 FAX 028(687)4818
- グループホーム こぶしのときわ荘 ☎321-0954 栃木県宇都宮市元今泉6-14-20  
TEL 028(662)5533
- グループホーム すずらんの家 ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2305-2  
TEL 028(677)4430

# こぶしの会は 特集 本格的に生活支援にとりくみます

こぶし作業所及びけやき作業所では10月1日から、生活支援事業を実施することになりました。障害者福祉のキーワードとして「地域生活支援」ということが昨今謳われていますが、福祉の一般的な動向として「施設から在宅へ」という流れの中、福祉サービスを利用する方の生活の質を高めると同時にサービス利用者本位の生活を送るための支援体制づくりが課題として大きく浮かび上がってきました。

しかし、地域で本当に安心して生活を送るためには、緊急時の対応やすぐに相談できる窓口が近くにあることが必要です。それが生活支援事業です。

## 宇都宮市知的障害者

### 生活支援事業

#### こぶし作業所

「知的障害者生活支援センター」は、地域で生活する知的障害者の方の様々な相談にのり、アドバイスをしたり、関係機関との調整を行うなど、知的障害者の方が地域の中で安心して生活ができるように支援をしていくことを目的にしています。

一口に相談といっても、その内容は思っていることや考えていること、不安や悩み、生活の形態も人それぞれ違うように、個々によって異なり、様々だと思えます。

ここでは、以下のようなことを行います。

#### ■支援の内容

・日常生活上の相談（電話、家庭訪問、外来等）及び援助

健康管理

金銭

介護

住まい

余暇活動

対人関係

結婚や育児

・仕事、就労に関する相談及び援助

・その他

※ここに挙げているものは一部です。

本人の生活上や職業上の相談等をお受けし、各種関係機関等と連携を図りながら、安心して地域生活が送れるような支援の体制を創ります。

#### ■センターを利用できる方

・一人暮らしの方

・グループホーム（四人以上で共同で生活する所）を利用する方

・家族と同居の方

等、地域で暮らしている知的障害者の方なら誰でも利用できます。

#### ■利用の方法

生活の中で困ったことがあったら……

①まず「知的障害者生活支援センター」に相談してください。

②相談を受けたら、センターにて簡単な登録を行います（難しくありません。ご安心ください）。

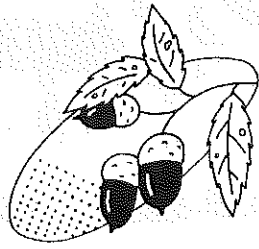
③困ったことを解決するために、具体的な支援を開始します。

支援センターでは、他の関係機関（福祉事務所や知的障害者更生相談所、等）と連携して具体的な支援を行っていきます。

相談を受けた内容や個人の秘密については他に漏らすことは絶対にありませんので、安心してご利用ください。

☆担当より一言☆

まだ始まったばかりの事業ですが、利用される方が安心して地域生活を送れるように、一緒に考え、取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願います。  
（山田 登子）



「困ったを良かったにする

お手伝い」

県東ライフサポートセンター開所！

けやき作業所

稲毛田小学校跡地に精神障害者地域生活支援センター

「県東ライフサポートセンター」が開所しました。稲毛田小学校跡地は現在第二けやき作業所として活動していますが、センターはそこへの併設というかたちになっています。職員は鈴木順子センター長をはじめとする東海林利臣、前濱希の三名です。

さて、精神障害者地域生活支援センターとはどのような場所か、事業実施までの背景にもふれながら簡単に紹介したいと思います。精神障害者に対する国の福祉施策は身体障害者福祉法、昭和二十四年）、知的障害者（知的障害者福祉法、昭和三十五年）よりもはるかに遅れをとっています。精神障害者は、昭和二五年に制定された精神衛生法では福祉施策の対象とならず、精神保健法（昭和六二年）と改められたときに初めて福祉施策の対象となりました。この福祉施策が無い間に、精神障害者の地域生活を支えてきたのが「こぶし」も歩んだことのある全国各地にある無認可小規模共同作業所でした。その活動の中において様々な活動や運動が生みだされ、自然と精神障害者の地域生活の援助や相談も作業所が行うようになっていきました。そして、平成七年の精神保健福祉法の制定や障害者プランにおいて、生活のしづらさをかかえる精神障害者への住居、食事、就労、仲間づくりなどの日常生活面での相談や援助を専門的に行う機関として精神障害者地域生活支援センターが設立されました。

平成十二年六月号のこぶしだよりで精神障害者について

では簡単にふれていますが、精神障害の「障害」というのは、病気（精神分裂病、アルコール依存症、そううつ病など）そのものではなく、病気が治療によってよくなり、地域生活に移ったときの「生活のしづらさ」（何事にも要領が悪い・緊張する、生活の枠組みがなかなかできない、人間関係が上手くこなせないなど）であるという見方が一般的になってきています。私たちスタッフの仕事の核となるのは、その「生活のしづらさ」を抱える精神障害のある方々へのさまざまな「困った」への支援（相談、日常生活援助）ということです。その際の関係機関との協力をもつことによる多面的な支援の展開、及び障害者サポートのネットワークづくりという点も欠かせません。他にも落ち着ける場や交流の場の提供、家族会への支援、地域交流活動や当事者活動のサポートなど、仕事は多岐にわたります。

「困ったを 良かったにする お手伝い」をキャッチフレーズに、精神障害のある方がどんな困難な事態に陥ってしまったとしても、本人の願いや希望を大切に受け止め、私たちが支援（お手伝い）をさせていただくことにより、最後には「良かった」と笑顔で地域生活を過ごしていけるような活動を展開していければと考えています。よろしくお願います。

（東海林 利臣）



### 全体のようす

コンサートにむけて関係者を中心に多くの方々からの協力を得て、七件の協賛と二五件の後援。当日配布のパンフレットの広告では一〇四社(一一二〇)の協賛をいただきました。また、企業や団体の他、ボランティアの力も大きいものでありました。チケット販

去る9月23日(日)透き通るような青空のもと、真岡市民会館にてコンサートは開かれました。入場者数800人を超え、翌々日の下野新聞にも掲載されるほどの大反響となりました。

会場全体が手話表現される光景はとても感動的であり、また障害がある方から「自分のとは違う障害の実態を知ることができ、支えてもらうばかりではなく、自分が誰かの支えとして活躍できる場があるのではないか」ということを改めて実感することができた」との感想をいただき、またボランティアさんからも「仕事として何も出来なく悔やまれるけれど施設がどのよう

売に始まり、当日の会場運営など、突然の依頼でも快く引き受けて下さった方や、学校の部活の取り組みとして位置づけて参加して下さいました団体、以前からこぶしの会に関わって下さっている方など、ボランティアの輪も広がり始めています。

仲間のステージは後ほどご紹介するとして、メインステージの「鳥塚しげき・のり子のバリアフリーコンサート」は、手話を取り入れられるという事もあり、多くの聴覚障害者の方々が来場されました。鳥塚さんの指導で様々な歌を

### ひろがね「コンサート」 2001に参加して

たくさんのお客様を迎えての「ひろがねコンサート」は大成功でおめでとございました。実行にむけての皆さまのひたむきな努力の賜物で来場された誰もがさわやかな感動を持ち帰られたと思います。

「けやき作業所」でのリハールで初めて障害者の方々とお逢いしましたが輝く目がとてもきれいに澄んでいてみんながそれぞれに純粋に生きているのがわかりました。

又、それを懸命に支えている職員の皆さまの姿に胸を打たれました。その純粋さと懸命さが強い心の絆になっていることを知りました。障害者の方たちは屈託のない笑顔で私たちと手話を交えて歌うことに全身を躍動させて喜びを表現していたことが印象的でした。

それは喜びを共有する仲間として私たちを認めてくれた証だと思えます。

今まで手を引つ込めてバリアを張っていたのは私たち健常者の側で、障害者の方々は、まったくバリアの無いことを深く理解しました。

今の自分に何ができるか分かりませんが、今回のコンサートが契機になって、更に多くの人々の理解と強調の輪が広がってゆくことに大きな期待を寄せます。

私も大きな「感動」をいただきました。

ありがとうございました

二〇〇一年 九月 真岡市民合唱団一員より

にできていくのかを知ることができた。」との話しもありました。こうして私たちの運動は、理解され広がっていくのだと実感する場面でした。

「セルフみらい」の建設予定地である真岡市での企画は今までになかった新たな開拓を求められるものでした。その中で、この取り組みを成功へと導いて下さったのは、関係者の熱意と私たちの運動に賛同して下さった地域の方々の力あってこそではないでしょうか。

わたしたちはこれからも、障害のある方々の多様なニーズに応えるべく「夢・実現に向けて」地域の皆さんと一緒に運動を広げ続けていきたいと思いません。

(猪瀬 和恵)

## 仲間のステージ

練習から本番まで……

第一部である仲間のステージは、「構成詩 夢ひろがる明日（みらい）へ」というテーマで、こぶし作業所とけやき作業所等の仲間の紹介、そして「みらいの会」のお母さんたちの想いが、仲間たちの歌とともに繰り広げられました。仲間たちは各作業所で練習を行

いきましたが、作業時間の違いや場所が離れていることもあり両作業所ともみんなそろっての練習を行なうことは難しいものがありました。それでも皆一生懸命歌を覚えようと作業中でもテープを聴きながら歌っていました。また、コンサート当日までには両作業所そして真岡市民合唱団の方達との合同練習が二回行われました。今回は手話の導入もありましたが、見様見真似で一生涯命手を動かしながら歌を歌う仲間の姿がありました。手話をしようとする歌がうまく歌えず、また歌を一生懸命歌おうとすると手話が出来なくなる仲

間もいたようです。そして、コンサート当日、皆衣装もバッチリきめて参加しました。練習不足で少しの不安はありましたが、ステージいっぱい素晴らしい笑顔と歌声を響かせることができました。そうした仲間たちの姿に客席からは大きな拍手と声援が贈られました。仲間にとっても素晴らしい青春の一ページを飾ることができたのではないのでしょうか。笑顔が輝く一日でした。

(宮岡麻美)

## ひろがれコンサート 2001に参加して

ひろがれコンサート〇一は、みらいの会のボランティアに参加して二度目のイベントでした。六月の実行委員会で宣伝担当となり、ポスター・チラシ・チケット・パンフレット等のデザインから始まり、数回の印刷所との打ち合わせ、校正と多忙でしたが、刷り上がったときの充実感、格別なものでした。

しかし、一番大事なことは、広告の依頼とチケット販売だと思います。

どちらも金銭が絡むだけに、無理強いや、嫌悪感を与えてはいけなと思います。

このようなイベントを通して、これからも「セルフ・みらい」を理解、支援してくれる人の輪を広げるためにも気をつけなければならないことです。

最後に、「よいコンサートでした」という声をお客様からいっばいいただきました。準備期間中、失敗や辛いときもありましたが、この言葉で、お手伝いしたことを嬉しく思っています。

篠原 加代子 (ボランティア)

# おむすび

保護者  
リレートーク

今回は高橋智子さんのご家族の登場です。  
インタビュー形式で進行します。

△こぶし作業所との出会いはいつですか？

聾（ろう）学校の時に見学して、先生の紹介を通して知りました。

△どんな印象でしたか？

当時は新しい建物でした。二十年前ですからね。

こぶしを最初に見学したとき、聾学校の先輩だった斉藤さんが働いていました。智子たちより軽い仲間がいろいろ喜んで話しかけていました。うちの智子も、その他の子も重かったの、入れるかどうか、あきらめていました。

その後、見学しても、施設が見つからず、卒業間際（三月）になっても見つからずどうしようもなかったです。智子は当時六歳までしか生きられないと言われていましたが、高等部までやってこられたので、しかも、学校時代に指文字や手話でコミュニケーションをとれるようになってきたので、在宅になつては勿体ないと思いました。そんなとき、市役所からも一回こぶし作業所を紹介されました。そのときは市役所の職員、聾学校の先生も一緒でした。こぶしでは、住谷所長、菅井さんと話しましたが、仕事をまずはやってみてください、と言われました。

△そのときはどんな仕事をしたのですか？

ベアリングです。まずはやってみたのですが、できるようになってきて「できるじゃないですか」と言われ自信がつき、それから実習に通い始めました。はじめは週二回〜三回の実習でした。最初は家で送迎していたのですが、あとで送迎が始まり、三年実習を続けてきました。「地獄に仏」じゃないけれど、入れたときははとでもうれしかったです。それからもう十六、十七年たつのですね。

△今は、「キッチンセルプ」の仕事についていますが、どうですか？

セルプの職員はじめ一生懸命かかわってくれて、とても落ち着いていますね。仲間の亀田さんが一緒にいてくれて落ち着いているようです。私もキッチンセルプには時々行きますが、安心します。

△仲間も手取り足取り、身振り手振りで話そうとしていますね。△

うれしいです。智子と関わりを持つとういうことで、仲間にも職員の方が話しているのですね。言いたいことは智子もたくさんあるのです。それを包み込んで、気持ちを伝えるようなこぶしの雰囲気がいいと思います。

△働いて得た給料は？

私たちに「自分で働いたお金だ」といつてくれます。それを神棚にあげておきます。

主人ともお互い話すのですが、小さいながら社会性がついてきたね、と言っています。これもこぶしに通っていたからと思います。

家でもできることとできないことがあります。社会

性をつけるのは大事だと思います。それを智子なりに把握しているようです。

△給料や買い物のもつとも？

はじめはお金に関心はなかったし、買い物の楽しみも感じなかったのですが、買い物訓練があり、今では、スーパーのチラシを「見て」と言ってきます。そして自分の好きなものを買うのです。いろいろなことを経験して、ここまでこれたのです。

△将来の希望は？

親が年をとっていくとどこまでできるかわからないですが、本人が安心して生活できる環境が理想です。こぶしの仲間と穏やかに暮らせればいいです。

お忙しいところ、取材に協力していただき、どうもありがとうございました。



# 今年も頑張った

## こぶしバザー

### 毎年秋の風物詩、こぶし作業所チャリティーバザー。

すっかり涼しくなった十月七日(日)、二荒山神社境内において、後援会主催の第二十四回こぶし作業所チャリティーバザーが実施されました。本年のバザーは、年々商品提供が少なくなっている中で商品依頼回りも力を入れ、また、日中保護者・ボランティアさんにご協力いただき、能率的に値段付けや整理を行うことができました。

当日は晴れということもあり、食料や仲間の店を中心に盛況のバザーでした。おかげさまで、収入合計八四八、七三八円、支出合計一〇五、二〇九円、純利益七四三、五二九円の売り上げを得ることができました。ご協力くださった皆様にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

# 今年も頑張った

## 「第八回けやきまつり」は十月七日(日)に第二けやき作業所にて開催されました。

今年のけやきまつりのテーマは、十月一日に第二けやき作業所に「県東ライフサポートセンター」が開所したため「OPEN けやき」にしました。地域の子供達に来場してもらおうと内容を宇都宮動物園より小動物のミニ動物園、地域の人達がけやきまつりに参加

できるようにカラオケ大会・フリーマーケット・地元の芸能団体の発表、芳賀郡内やきようされんに加入している施設の製品の即売をしました。今回は宣伝を重視してチラシ約六、〇〇〇枚を後援会の会員・県内の関係団体・芳賀町と市貝町の小学校・保育園等の全児童・市貝町と祖母井地区に全戸配布しました。しかし、当日は他にも行事が重なり準備不足もあわせて来場者数がどれくらいになるか不安のままけやきまつり当日を迎えました。けやきまつりは芳賀町と市貝町の各町長・各町会議長・各町会議員をはじめたくさんの方を来賓の方を迎え開会しました。時間が経つにつれて子供達にはミニ動物園に行き、地域の方はフリーマーケットやカラオケ大会の所に行き、来場者数が増えてきて広い駐車場に車が入りきれない程になりました。きょうされんより「精神障害者の歴史」のパネルを借用し展示したところ精神障害者の実態に驚かれる方がいて好評でした。七〇〇名近くの方が来場され改めて芳賀町と市貝町のけやき作業所の知名度の広さがわかりました。最後に当日慌ただしいなかで協力していただいたボランティアや後援会の役員の方に感謝いたします。

## 新人紹介

こぶし作業所、けやき作業所に新しい職員が入りました。よろしく願いいたします。

鹿沼 美幸 (こぶし作業所)

初めまして、鹿沼美幸と申します。半年間こぶし作業所で働かせていただくこととなりました。色々ご迷惑をおかけしますが、ご指導の程よろしく願いいたします。

山田 登子 (やまだ たかこ) (こぶし作業所)

皆さん、初めまして。この度、生活支援ワーカーとして新しく「こぶし」に仲間入りした山田登子です。毎朝、仲間の明るい挨拶から元気を貰っています。一日も早く慣れるようがんばっていきますので、どうぞ宜しくお願いします。

成田美智子 (けやき作業所)

初めまして、成田と申します。

今まで工場でしか働いたことがなくまったくの素人で福祉の世界へ飛び込んでしまいました。わからないことだらけ、不安もありますが頑張りたいと思うので宜しくお願いします。

前濱 希 (県東ライフサポートセンター)

十月の県東ライフサポートセンターの開設と同時に働くことになりました。前濱 希と申します。わからないことばかりで毎日、悪戦苦闘しています。今後は専門的な事や仕事はやく覚え、ライフサポートセンターにとって必要な人材になれるよう頑張りたいと思います。

## 11月こよみ

### こぶし作業所

- 1~2日 家族旅行 (瀬波温泉)
- 3日 とちぎ福祉プラザ一周年の集い
- 4日 日産栃木工場しらすぎまつり  
平石地区文化祭
- 10日 支援会議
- 17日 職員会議
- 23日 宇都宮市福祉まつり

### けやき作業所

- 1~2日 家族旅行 (群馬・水上)
- 3日 支援会議
- 4日 日産栃木工場しらすぎまつり
- 11日 芳賀町民祭バザー
- 17日 職員会議
- 25日 市貝町民祭バザー

# 掲示板

※お問い合わせは  
こぶし作業所へ

## セルフ・みらい建設のための 募金にご協力ください

施設を建設するためには、多額の資金が必要になります。国や県から補助を受け、又、公的な融資制度を活用しても約1,700万円の寄付・募金なくては、施設を建設できません。

そのため、皆さまには、私たちの施設づくりの趣旨をご理解いただき、施設建設募金へのご協力を心よりお願いいたします。

## 募金要領

1口3,000円です（何口でも結構です）

募金をしてくださる方は

●事務局または作業所にお持ちくださるか、下記までお電話いただければ幸いです。

事務局（佐護方） 0285（84）6181

けやき作業所 028（687）1040

●ご送金（郵便振込）の場合は、所定の振替用紙をご使用いただくか、下記へお願いいたします。

郵便振替 口座番号 00140-9-558846  
みらいの会

## ボランティア 募集

こぶし・けやきで  
楽しく仕事をしませんか

- 内容
- こぶし作業所
  - けやき作業所
  - デイサービスセンター
  - 第2けやき作業所  
（作業所で仲間と一緒に仕事をして下さる方募集しています。）
  - キッチンセルフ  
厨房・フロントでお手伝いしていただける方
  - ときわ荘  
日中のそうじボランティア  
大募集
  - すずらんの家  
夕食づくりボランティア

こぶし作業所・けやき作業所  
後援会会員拡大にご協力をよろしく  
お願いいたします。

共同作業所全国連絡会  
賛助会員募集  
連絡は栃木支部事務局  
けやき作業所へ



ふふふせっけん  
好評発売中!!

粉石鹸 1.2キロ入り 240円  
固形石鹸 2個入り 100円



みらいの会支援

## ダンス パーティ

10月26日(金)  
市貝町市民会館

お問い合わせは  
けやき作業所まで  
みらいの会まで

にこにこ  
パン屋さん

各種豊富に取りそろえて  
おります。注文票をFAX  
にてお送りしますので、  
お気軽にご連絡下さい。

## けやき作業所

